

第9回優秀論文賞選考理由

選考委員会委員長・深川由起子

近年、経済学分野では情報の非対称性や取り引きコストに関連した理論が急速な進歩を遂げており、とりわけ市場機能が未発達もしくは脆弱な途上国についてはこれらによって多くのメカニズムが解明されつつある。ただし、実際に豊富な実証があるかといえれば必ずしもそうとはいえない。第9回優秀論文賞に選ばれた張馨元「中国のトウモロコシ流通市場における『經紀人』の役割－吉林省の事例」は、2004年の中国の食糧管理政策の転換後、とうもろこしの主産地である吉林省の流通メカニズムがどう変化したか、主として經紀人と呼ばれる仲買人が市場化に対して果たした役割について実証的に研究した成果である。

手法は実地調査とアンケート調査で、2004年以降の流通自由化において、「經紀人」が競争的市場価格の形成、食糧流通システムの効率改善、零細農家の経営支援などに貢献したことを実証しようとした。特に1) 実地調査やアンケートによる一次資料を利用して手堅くまとめたこと、2) 仲買人が取り引きに積極的な役割を果たす、とする1980年代以降の一般論を踏まえながら、市場化という文脈の中で捉えたこと、3) 競争的市場価格の形成、食糧流通システムの効率改善、零細農家の経営支援など複合的でバランスのとれた検討を行っていること、などの点が高く評価された。今後はアクター論に止まることなく、P.Bardanなど、経済開発と制度に関するミクロ経済理論などにも目配りした実証への発展が期待できる。

受賞の言葉

東京大学大学院 張馨元

このたび、拙稿が学会優秀論文賞を頂けることは望外の幸福です。まず、選考委員会の先生方に心よりお礼を申し上げます。

私は大学院で中国のトウモロコシ産業について研究しており、2006年から同産業の発展に関する現地調査を実施してきました。調査の中で、食糧流通体制の自由化が実施された2004年以前から、主産地のトウモロコシ流通市場において、民間セクター、とりわけ現在「經紀人」と呼ばれる仲買人が活動していたことが明らかになりました。さらに、現在、主産地では9割以上の農家は国有食糧企業ではなく、庭先まで買付に来る「經紀人」にトウモロコシを販売しているということも検証できました。しかし、これまでの中国食糧流通市場に関する先行研究では、民間セクターを対象とする分析が十分に行われず、私は中国の農業・農村の発展状況を理解するために、トウモロコシ「經紀人」の役割を明白にすることが重要であると感じました。